

北九州市環境基本計画進捗評価報告

(平成21年度)

北九州市環境局

平成23年9月

目 次

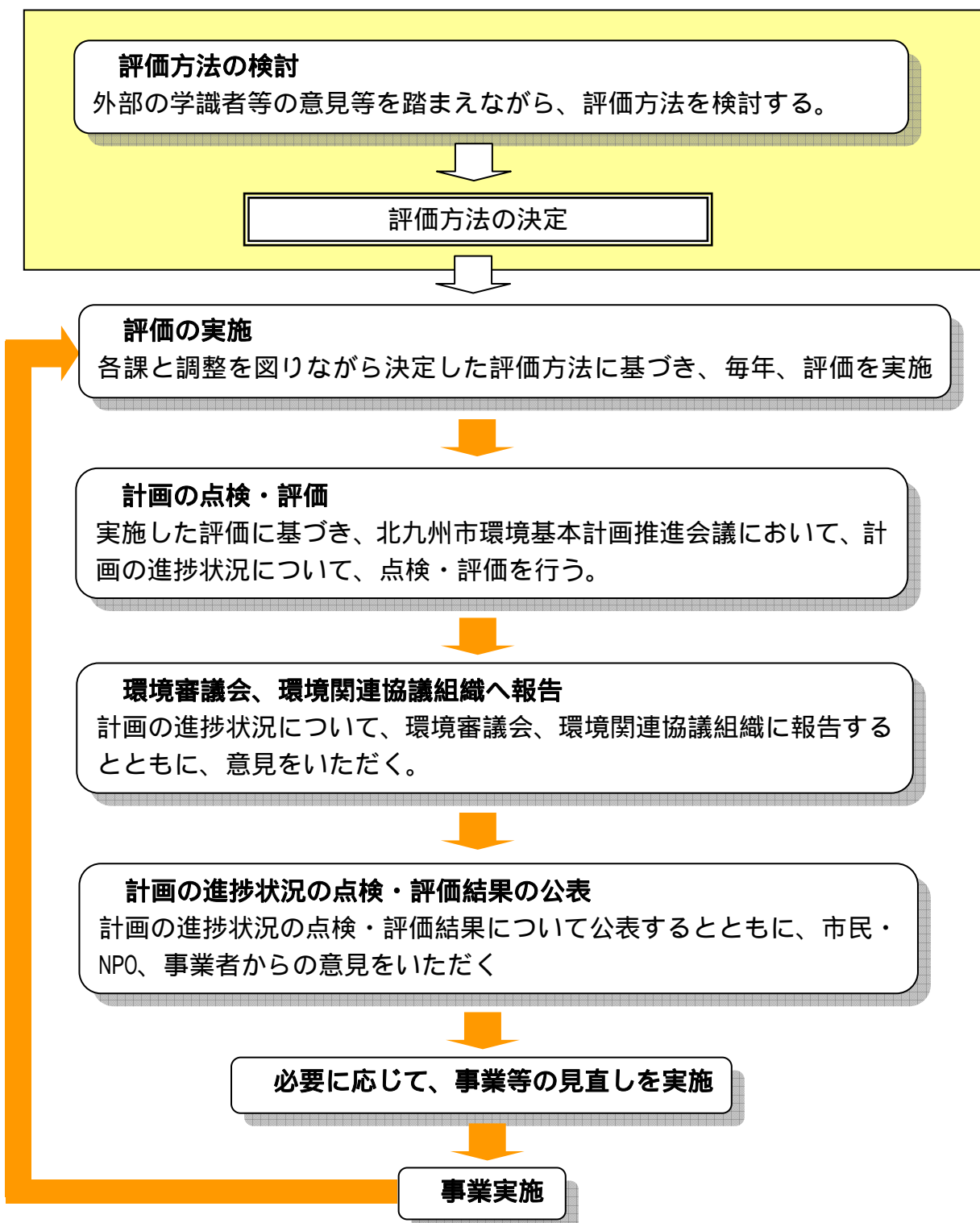
評価の目的	1
評価作業手順	1
北九州市環境基本計画評価方法について		
1 評価対象の選定	2
2 評価軸の指針	2
3 採点方法	3
評価報告		
1 総合評価	5
2 地域から世界にひろがる北九州市民環境力の強化	6
3 地域からの地球温暖化対策の推進	15
4 循環型の生活様式・産業構造への転換	24
5 豊かな自然環境と快適な生活環境の確保	30
【参考】		
北九州市環境基本計画事務事業評価票	37

評価の目的

北九州市環境基本計画の実効性を確保し、計画の着実な推進を図るために、目標の達成状況や進捗の状況を捉え、適切な見直しにつなげていく。

評価作業手順

評価作業については、評価方法を学識者の意見を伺った上で、「北九州市環境基本計画推進会議」で決定し評価を実施。



北九州市環境基本計画評価方法について

1 評価対象の選定

当計画に掲げる4つ政策目標を達成するために実施する「事務事業」について進捗状況等を評価する。対象とする事務事業は以下のとおり。

(1) 戦略プロジェクト

当計画において先導的役割を持ち、本市独自の先進的な取組として掲げている「戦略プロジェクト」を評価対象事業とする。

(2) 基本政策項目関連事業からの抽出

戦略プロジェクト以外で、一定の期間をかけて行う事業、事業費が比較的多い事業、政策の中心となる事業について、当計画の掲げる「基本政策」のカテゴリーに沿って抽出し、評価対象事業とする。

【評価対象事業数】

項目	地域から世界にひろがる北九州市民環境力の強化	地域からの地球温暖化対策の推進	循環型の生活様式・産業構造への転換	豊かな自然環境と快適な生活環境の確保	合計
事業数	22	24	10	16	72

- 1) 評価対象事業数には、未着手・計画・準備段階・終了の事業も含んでいる。
- 2) 基本政策項目間で再掲されている事業(2件)は、重複している。

2 評価軸の指針

事業担当課は以下の指針を基に、事務事業評価票(評価シート)を記載し、評価を行う。 p37の「北九州市環境基本計画事務事業評価票」を参照

(1) 達成度

目標に対する実績(アウトプット)と、その目標達成によって提供された結果、最終的に得られる成果(アウトカム)について把握可能な場合は評価する。

達成度	アウトプット指標	定量的な目標	目標値に対する実績
		定性的な目標	目標に対する現状
	アウトカム指標	客観的な数値が把握できる場合 (例)市民意識調査、CO ₂ 削減量、ごみ削減量	

(2) 波及効果

事業実施による社会的効果・影響(面的波及効果)、発展性(時間的波及効果)について評価する。

当評価軸には、事業の「妥当性」「必要性」の意味づけも含まれる。

波及効果	社会的効果・影響	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会・市民・企業などに環境問題解決へ向けた良い効果や影響を与えたか。 ・環境改善にどのような好影響を与えたか。
	発展性	<ul style="list-style-type: none"> ・将来的な発展性が認められるか。 ・事業継続の妥当性があるのか。

(3) 効率性

事業の効果に対して適正な規模の経費であるかどうかを、当該事業の環境政策（政策目標内）全体に占める割合等を示し、「達成度」「波及効果」との関係性から提示する。また、コスト縮減などの仕組みがあるかを評価する。

効率性	事業の効果に対して適正な規模の経費であるか
	受益者負担などコスト縮減の仕組みがあるか。また、事業を実施することで収益の創出や行政コストの削減が実現したか。

(4) コメント欄

事業を実施するにあたって特記すべき事項や、市民からの要望・期待が特に大きいもの、本事業を実施することによって付随・派生した効果など、上記3つの指標では示せないものを記述する。

3 採点方法

(1) 事業毎の評価

事業毎に、3つの評価項目（達成度、波及効果、効率性）について、4段階で評価する。採点基準は以下の表のとおり。

【採点基準】

項目	A	B	C	D
達成度	目標を高いレベルで達成している。	目標をほぼ達成している。	目標は達成していない。	目標にはるか及ばない。
波及効果	環境改善に寄与し、かつ地域社会・市民・企業などに好影響を与え、事業継続により、更なる発展が見込める。	環境改善や社会的な好影響がある程度認められ、事業継続により、今後の発展が見込める。	環境改善や社会的な好影響があまり認められないが、事業継続について改善の余地がある。	環境改善や社会的な好影響が認められず、事業継続による今後の発展が見込めない。

効率性	効率性（事業効果と事業費との相関から見た適正さ、受益者負担や収益の創出などによる行政コスト削減への貢献度合いなど）が高い	効率性（同左）は適当であると認められる。	改善の余地がある。	抜本的な見直しが必要である。
------------	--	----------------------	-----------	----------------

(2) 配点方法

達成度は4点満点、波及効果、効率性は3点満点で採点する。達成度については、目標値を設定していない場合は3点満点とし、事業が開始される前のものは、事前評価とし、原則として、波及効果、効率性を推定することで事業評価とかわる。

【達成度】(4点満点) A 4点、B 3点、C 2点、D 1点

【波及効果・効率性】(3点満点) A 3点、B 2.25点、C 1.5点、D 0.75点

(3) 事業の総合評価

3つの評価項目に沿って点数化された結果を基に、総合評価する。

A：積極的推進：8.25点以上

B：一部見直し：6点以上～8.25点未満

C：抜本的見直し：4点以上～6点未満

D：廃止及び休止：4点未満

評価報告

1 総合評価

(1) 総合評価

総合評価点数から判断すると、平均点は年々伸びており、21年度に85%を超えるなど概ね順調な進捗状況といえる。また、一部事業で内容の見直しなどを行った結果、総合評価は、「A」または「B」評価だけとなった。

4つの基本政策部門別では、「地域から世界にひろがる北九州市民環境力の強化」が他の部門に比べ低いが、21年度に総合評価が80%を越えている。

21年3月に環境モデル都市行動計画「北九州グリーンフロンティアプラン」策定し、低炭素化社会づくりを目指した施策が一層拡充されている。また、22年4月に、国から「次世代エネルギー・社会システム事業」を行う地域として八幡東田地区が選定され、次世代送電網（スマートグリッド）を中核に、交通システムやライフスタイルの変革を図る様々な実証を行っている。

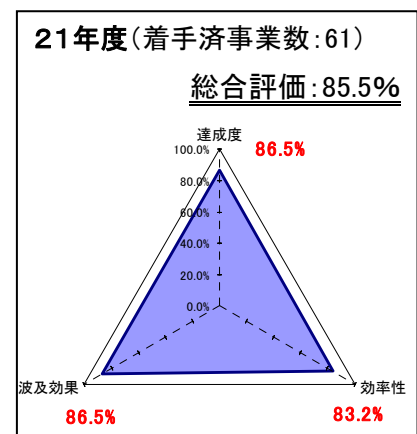
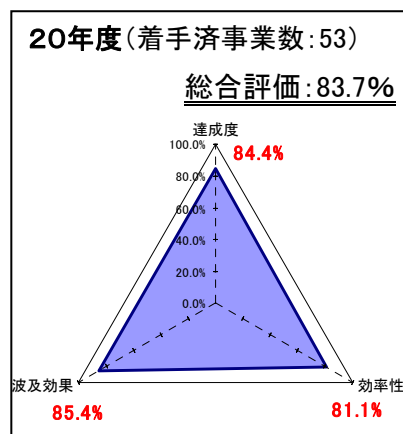
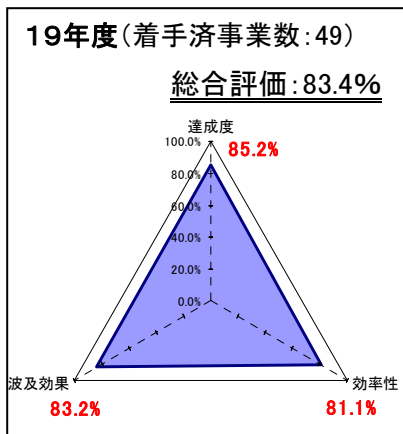
(2) 評価対象事業数と評価状況 総数は、着手済の事業数の合計

年度	※総数	A	B	C	D
19	49	36 (73.5%)	12 (24.5%)	1 (2.0%)	0
20	53	40 (75.5%)	11 (20.8%)	1 (1.9%)	1 (1.9%)
21	61	48 (78.6%)	13 (21.4%)	0	0

(3) 事業数と関連経費 対象事業決算額には外部の機関の決算額も含む

環境基本計画関連経費〔決算ベース〕			
	19年度	20年度	21年度
事業数 (対象事業総数)	213 (49)	210 (53)	239 (61)
関連経費総額 (対象事業決算額合計)	9,764,671千円 (1,564,977千円)	10,841,950千円 (1,409,750千円)	13,859,527千円 (2,686,862千円)

(4) 総合評価点数の平均点



2 地域から世界にひろがる北九州市民環境力の強化

(1) 基本施策に関する事項の概況

市民自らが環境を考え、行動することを目指した「市民環境力の強化」を目指して、さまざまな施策に取り組んでいる。

4つの基本政策別では、他の部門に比べ総合評価が低いですが、21年度は80%台に向上している。

20年度から開始した「北九州市環境首都検定(ア- a)」は、アンケートの結果を踏まえ、主に小学生向けの「入門編」と中学生以上向けの「一般編」の2部門を設けるとともに、高得点(70点以上)の参加者に合格証を交付した。その結果、市内外から幅広い世代の830人が参加した。

国際協力分野では、青島市・天津市へのエコタウン協力をはじめ、公害克服の過程で培った技術を発展途上国の環境改善に役立てており、これまでに研修員を137カ国5,805人受け入れ、153人をカンボジア、中国など25カ国に派遣するなど、積極的に取り組んでいる。

「地域循環型生ごみ処理機リサイクル事業(ア- a)」については、参加団体が少なく、生ごみ処理機の不具合もあって、20年度途中で事業を中止し抜本的な見直しを行った。

21年度は「生ごみコンポスト化容器活用講座モデル事業」として、様々なコンポスト化手法の紹介や、継続的に使用するためのコツ等をわかりやすく伝える講習を実施した。50名が参加し、ほぼ全員が生ごみのコンポスト化をはじめると、生ごみの資源化・減量化に対する意識を高めることができ、22年度からは本格的に講座を実施している。

「リサイクルプラザ・エコライフプラザ(ア- e)」のうち、リサイクルプラザは、主にリユース事業を行ってきたが、来館者の減少、事業経費に加え市内の民間リサイクルショップが充実していることから、21年度末で家具等のリユース提供を廃止した。

(2) 評価対象事業

以下の18項目22事業(再掲分を除く)を評価対象としている。

ア：戦略プロジェクト関連事業	イ：基本政策項目関連事業
北九州環境学検定制度の創設 a 北九州市環境首都検定 持続可能な開発のための教育(ESD)の拠点化 アジアの環境人財育成拠点形成事業 北九州エコライフステージの開催 環境首都1万人フォーラム 北九州市民環境パスポート事業 生ごみ地域循環システムの研究 a 地域循環型生ごみ処理機リサイクル事業 わがまちの環境自慢 市民環境力による3R推進の諸事業 a 3R活動推進事業 b 古紙リサイクル推進事業 c 廃食用油リサイクル事業	地域総括補助金事業 地産地消推進事業 環境学習施設連携事業 環境教育推進事業 北九州市環境賞 環境国際ビジネス促進事業 まち美化等啓発事業 環境国際協力推進事業

d 剪定枝リサイクル事業 e リサイクルプラザ・エコライフプラザ f 北九州市民環境パスポート事業〔再掲〕 菜の花プロジェクトの推進	
---	--

(3) 事務事業の進捗状況

今回評価対象とした 22 事業の内、20 事業が着手された。

20 年度から実施された事業又は計画段階となっている事業

21 年度から実施された事業又は評価を開始した事業
「まち美化等啓発事業（イ - ）」 「環境国際協力推進事業（イ - ）」
これまでに終了した事業
「北九州市環境賞（イ - ）」 21 年度に事業を終了。
計画段階又は中間段階（完成に到っていない）の事業
地域循環型生ごみ処理機リサイクル事業（ア - - a）」 事業を見直し、21 年度から「生ごみコンポスト化容器活用講座」をモデル実施。22 年度より、本格実施する。

① 総合評価

各評価軸の総計によれば、「A」「B」が 65%、35%となり、「C」及び「D」はなかった。総合評価は 80%を超え、「達成度」「波及効果」の各項目も 80%台となっている。

評価軸の総計

（数値は事業数）

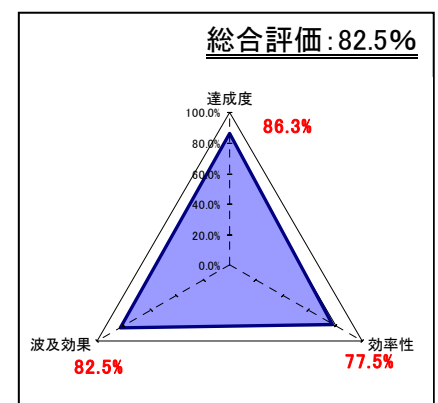
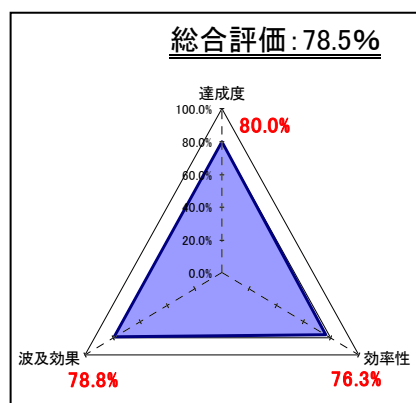
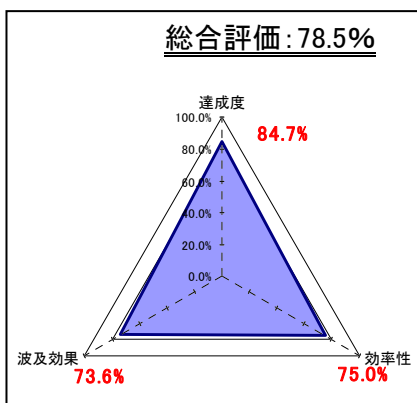
年度	項目	A	B	C	D
19		11	6	1	0
20		11	8	0	1
21		13	7	0	0

各項目の評価状況

19 年度

20 年度

21 年度



② 事業評価

評価内容の事例

「北九州エコライフステージの開催（ア- ）」は、前年の 43 万人から 57 万人に増加し、市民・企業・NPO との協働事業としての発展を見せている。また、エコライフステージのシンボルイベント「エコスタイルタウン」も、参加者が年々増加し、93 団体・15 万人を記録し市民に環境の環が広がっている。

「菜の花プロジェクトの推進（ア- ）」は、33 団体から 561kg の菜種を回収し、それを使ってイベント時に搾油の実演を行った。幅広い年齢層の参加者が、市民みんなで楽しみながら資源循環や新エネルギーについて身近に体験し、環境意識の向上につながっている。

課題となる事項

「環境首都 1 万人フォーラム〔エコライフネット〕（ア- ）」については、エコライフネットが十分に活用されていない。情報の充実や使いやすくなるための改善や地域・テーマ別事業の効果的な環境活動の情報収集を行うなど、サイトの活性化を図る必要がある。

③ 新たな動向（計画策定後の事業）

家庭での省エネ型ライフスタイルを提案するため、環境ミュージアム敷地内に 21 世紀環境共生型モデル住宅「北九州エコハウス」を 22 年 4 月にオープン。環境学習や大学・研究機関の実証研究の場として利用している。

また、環境ミュージアムは、施設整備から約 10 年が経過し、地球環境問題など今日的課題の展示を充実するため、23 年度に展示の改修や施設の再整備を行う。

22 年度から本市の環境学習施設や自然など環境に関する資源を活かして、総合的に学ぶ環境学習システムの構築に取り組んでいる。23 年度は環境学習プログラムの開発や専門人材の育成を行う。

アジア地域の低炭素化を通じて、地域経済の活性化を図るための中核施設として「アジア低炭素化センター」を 22 年 6 月に八幡東区平野に設置。地域に蓄積してきた環境技術を、アジア諸都市とのネットワークを活用しながらビジネスとして移転することを目指していく。

《各評価軸の概要》

達成度

（数値は事業数）

項目 年度	A	B	C	D
	目標を高いレベルで達成している。	目標をほぼ達成している。	目標は達成していない。	目標にはるか及ばない。
19	10	5	3	0
20	8	9	2	1
21	10	9	1	0

波及効果

(数値は事業数)

項目 年度	A	B	C	D
	環境改善に寄与し、かつ地域社会・市民・企業などに好影響を与え、事業継続により、更なる発展が見込める。	環境改善や社会的な好影響がある程度認められ、事業継続により、今後の発展を見込める。	環境改善や社会的な好影響があまり認められないが、事業継続について改善の余地がある。	環境改善や社会的な好影響が認められず、事業継続による今後の発展が見込めない。
19	2	13	3	0
20	5	13	2	0
21	6	14	0	0

効率性

(数値は事業数)

項目 年度	A	B	C	D
	効率性(事業効果と事業費との相関から見た適正さ、受益者負担や収益の創出などによる行政コスト削減への貢献度合いなど)が高い	効率性(同左)は適当であると認められる。	改善の余地がある。	抜本的な見直しが必要である。
19	2	15	0	1
20	3	16	0	1
21	3	16	1	0

《各事業の評価状況》

事務事業名 (戦略プロジェクト)	北九州市環境首都検定 (北九州環境学検定制度の創設)				特記事項
	達成度	波及効果	効率性	総合評価	入門編と一般編を設置したことから、子どもから年長者まで幅広い世代から830人が参加。(20年度は458人)合格率も80%を超え、受験者の環境意識の高さを再認識できる。
項目 年度					
21	B	A	B	A	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	持続可能な開発のための教育(ESD)の 拠点化(持続可能な開発のための教育 (ESD)の拠点化)				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	協議会のメンバーは、着実に増加(57 64 団体)。市民の認知度は 7%であ り、その向上が課題である。
21	B	B	B	B	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	アジアの環境人財育成拠点形成事業 (アジアの環境人財育成拠点形成事業)				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	研修員との人的ネットワーク構築によ り、国際協力事業を進めていくうえで、 元研修員が仲介役になり事業のスム ーズな推進につながっている。
21	A	B	B	A	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	北九州エコライフステージの開催 (北九州エコライフステージの開催)				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	参加者が大きく増加(43 万人 57 万 人)し、市民・企業・NPO との協働事 業として発展している。
21	A	B	B	A	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	環境首都 1 万人フォーラム〔エコライ フネット〕 (環境首都 1 万人フォーラム)				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	エコライフネットが十分に活用されて いない。利用者拡大のため、掲載内容 や情報量を充実し、サイトの活性化を 図る必要がある。
21	C	B	B	B	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	北九州市民環境パスポート事業 (北九州市民環境パスポート事業)				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	目標値である「レジ袋お断り率 20%」 を 20 年年度に達成し、その後も維持し ている。
21	A	A	B	A	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	地域循環型生ごみ処理機リサイクル事業 (生ごみ地域循環システムの研究)				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	事業を見直し、21年度から「生ごみコンポスト化容器活用講座モデル事業」として実施。参加者も予想を上回り、ほぼ全員がコンポスト化を実施。効率性は、本格実施の22年度以降に評価する。
21	A	A	-	-	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	わがまちの環境自慢 (わがまちの環境自慢)				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	認定件数が、目標である累計1,000件を達成。
21	A	B	B	A	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	3R活動推進事業〔3R活動推進表彰 など〕 (市民環境力による3R推進の諸事業)				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	各団体の活動を広く市民に紹介することにより、市民の3R活動に対する意識向上につながっている。
21	A	B	B	A	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	古紙リサイクル推進事業 (市民環境力による3R推進の諸事業)				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	地域コミュニティを活かした事業であるが、景気後退などにより回収量は減少している。
21	A	B	B	A	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	廃食用油リサイクル事業 (市民環境力による3R推進の諸事業)				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	20年年度に回収方式を回収ボックスにペットボトルのまま回収する方式に変更。また、出前講演等で周知を図り、回収拠点(610)回収量(3,6005,000リットル)が増加した。
21	B	B	B	B	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	剪定枝リサイクル事業 (市民環境力による3R推進の諸事業)				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	かえるプレスへの掲載や出前講演等による周知強化により、回収団体(11団体 19団体)、回収量が増加(93t 118t)した。
21	B	B	B	B	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	リサイクルプラザ・エコライフプラザ (市民環境力による3R推進の諸事業)				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	リサイクルプラザについては、民間のリサイクル事業の普及等から21年度末で事業を中止とした。
21	B	B	C	B	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	菜の花プロジェクトの推進 (菜の花プロジェクトの推進)				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	33の団体が参加し、イベント参加者等も増加するなど全市的な取組みとして広がりを見せている。また、予算規模も小さく、効率的な運用と考えられる。
21	A	B	B	A	

事務事業名	地域総括補助金事業				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	参加するまちづくり協議会数は着実に増加している。(98 110団体)。補助項目の一つである「校区まちづくり事業」を活用し、まち美化や環境保全などの地域コミュニティの活動を支援。
21	B	B	B	B	

事務事業名	地産地消推進事業				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	市内産青果物の使用量は、重量ベースでは微減。しかし、サポーター登録が大幅に増加した。(138 266件)
21	B	A	A	A	

事務事業名	環境学習施設連携事業				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	東田地区の3博物館連携事業の実施や、環境首都検定等の推進にあたり他施設や関係企業・団体から協力を得て、事業の効果・効率性を高めている。
21	B	B	B	B	

事務事業名	環境教育推進事業				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	子どもサミットは5校を指定して実施。エコツアーは60校を選定して実施。ツアー参加希望校が年々増加傾向にあり、環境教育に対する意欲が増している。
21	B	A	A	A	

事務事業名	北九州市環境賞				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	平成15年度から開始し、一定の効果がみられたので、21年度に事業を終了した。21年度は前年の報告書を作成。
21	-	B	B	-	

事務事業名	環境国際ビジネス促進事業				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	都市間ネットワークの活用により、信用のおける企業とのビジネスマッチングが可能となっている。
21	A	B	B	A	

事務事業名	【新規】まち美化等啓発事業				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	延べ12万7千人がまち美化活動に参加。市民のまち美化意識の高揚や定着につながっている。
21	A	A	A	A	

事務事業名	【新規】環境国際協力事業				特記事項	
	項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	
	21	A	A	B	A	タイ国及びインドネシア国にて、廃棄物管理に関する協力事業を実施。JICA や CLAIR などから事業を受託している。

3 地域からの地球温暖化対策の推進

(1) 基本施策に関係する事項の概況

当分野は、平成 20 年 7 月に政府から「環境モデル都市」に認定されたのを契機に、低炭素化社会づくりを目指した施策がより一層拡充されている。また、22 年 4 月に、国から「次世代エネルギー・社会システム事業」を行う地域として八幡東田地区が選定され、次世代送電網（スマートグリッド）を中核に、交通システムやライフスタイルの変革を図る様々な実証を行っている。

4 つの基本政策の中でも総合評価が最も高く、21 年度は約 88% の評価となっている。小中学校、市営住宅、水道施設への太陽光発電システムの設置や水力発電、風力発電などの再生利用エネルギーの導入を進めるとともに、市民や事業者が太陽光発電システムや屋上緑化を導入する際の助成にも取り組んでいる。

また、設備の省エネルギー化を図る「ESCO 事業」や建物の環境性能を自主的に評価する「建築物総合環境性能評価制度（CASBEE）」の普及にも取り組んでいる。

(2) 評価対象事業

以下の 12 項目 24 事業（再掲分を除く）を評価対象としている。

ア：戦略プロジェクト関連事業
エネルギー関連技術開発及び導入の推進
a 高効率廃プラスチック油化装置の開発
b F-T 合成における分子構造及び分子量分布の制御法に関する研究
c 水素・燃料電池に関する研究開発
d 石炭及びバイオマスを原料とする DME の製造とその利用に関する研究
e 食品廃棄物エタノール化リサイクルシステムの開発
f 小・中学校太陽光発電の設置
g 市営住宅 CO2 削減対策モデル事業
h 水道施設への太陽光発電施設導入
i 水力発電
j バイオマス（下水汚泥の燃料化事業）
まちのエネルギーシェイプアップ事業
a 家庭・建築物省エネルギー改修・新エネルギー導入促進事業
小倉都心部におけるヒートアイランド対策
a ヒートアイランド対策推進事業
b 小・中学校太陽光発電の設置〔再掲〕
c 勝山公園整備事業
d 花と緑の並木通り整備事業
e 都市モノレール・バスの利用促進（公共交通促進事業）
八幡東田グリーンビレッジ構想
a エコドライブ推進モデル事業
太陽光発電など地球温暖化対策関連設備への導入支援

a 地球温暖化対策推進助成事業 次世代エネルギーパーク構想推進事業
イ：基本政策項目関連事業
ノーマイカー推進事業 建築物総合環境性能評価制度（CASBEE）の構築 モーダルシフト推進補助事業 紫川エコリバー整備事業 北九州発！エコドライブプロジェクト ゼロ・カーボン先進街区形成推進事業

(3) 事務事業の進捗状況

今回評価対象とした 24 事業の内、19 事業に着手された。

21 年度から実施された事業又は計画段階、終了などとなっている事業

21 年度から実施された事業又は評価を開始した事業
「市営住宅 CO2 削減対策モデル事業（ア - - g）」 「水道施設への太陽光発電施設導入（ア - - h）」 「紫川エコリバー整備事業（イ - ）」 「北九州発！エコドライブプロジェクト（イ - ）」 「ゼロ・カーボン先進街区形成推進事業（イ - ）」
これまでに終了した事業
「F-T 合成における分子構造及び分子量分布の制御法に関する研究（ア - - b）」
計画段階又は中間段階（完成に到っていない）の事業
「水素・燃料電池に関する研究開発（ア - - c）」は、22 年度から実証研究を行う予定。 「石炭及びバイオマスを原料とする DME の製造とその利用に関する研究（ア - - d）」 については、事業期間が 19 年度～22 年度までで、研究途中である。 「市営住宅 CO2 削減対策モデル事業（ア - - g）」は、21 年度にモデル団地で着工し、22 年 に完成予定である。 「バイオマス（下水汚泥の燃料化事業）（ア - - j）」は、調査・研究を実施しているが事 業具体化には到っていない。 「ゼロ・カーボン先進街区形成推進事業（イ - ）」は、23 年度の土地区画整理事業の事 業認可を目指している。

① 総合評価

各評価軸の総計によれば、「A」または「B」のみの評価となった。

「達成度」、「波及効果」、「効率性」の各項目も 80%以上の評価となっている。

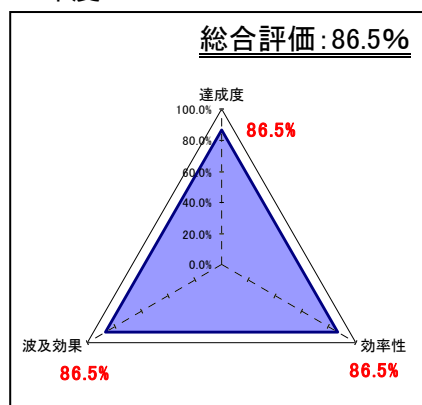
評価軸の総計

(数値は事業数)

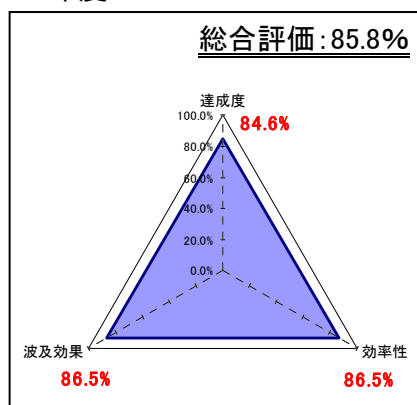
年度 \ 項目	A	B	C	D
19	11	2	0	0
20	11	2	0	0
21	18	1	0	0

各項目の評価状況

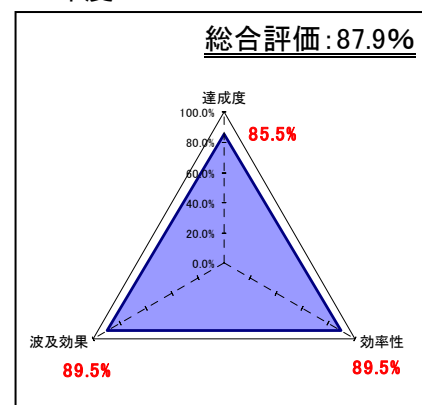
19年度



20年度



21年度



② 事業評価

評価内容の事例

「小・中学校太陽光発電の設置(ア- -f / ア- -b)」については、計画通り 61 校(累計 79 校)に設置した。CO2 削減効果とともに環境教育の教材として活用されている。北九州港を利用したモーダルシフト輸送に対して補助金を交付する「モーダルシフト推進補助事業(イ-)」については、補助件数が大幅に増え、20 年度の約 2.4 倍にあたる約 12,000 t の CO2 削減につながった。

課題となる事項

「地球温暖化対策推進助成事業(ア- -a)」については、太陽光発電については予定件数の 3 倍を越す申請があり導入の促進につながったが、太陽熱・地中熱利用システムについては予定件数を下回る結果となった。

「家庭・建築物省エネルギー改修・新エネルギー導入促進事業(ア- -a)」については、32 件の診断を実施し、年度内に 1 件の省エネ改修を行うなど、一定の効果があがりつつある。

③ 新たな動向(計画策定後の事業)

国から「環境モデル都市」に選定され、これを実現するための行動計画「北九州グリーンフロンティアプラン」を平成 21 年 3 月に策定した。このプランでは 135 事業を掲

げているが、そのほとんどの取組を開始しており、国からも最高の評価を受けている。若松区響灘地区に大型太陽光発電や大型風力発電、多目的石炭ガス製造技術開発施設、バイオディーゼル燃料製造施設など、多種多様なエネルギー関連施設が集積した「次世代エネルギーパーク」が平成21年7月にオープンした。半年間で約1万4千人の視察者が訪れ、エネルギーに対する理解の増進に役立っている。

市民が低炭素のまちを身近なものとして感じ、自らの行動につなげるとともに、まちの活性化や「世界の環境首都」としての都市ブランドを構築するため、小倉都心部において太陽光発電等の導入や環境活動の推進を展開する「紫川エコリバー構想」に着手した。21年度は、勝山橋に太陽光発電ルーフを設置した。

《各評価軸の概要》

達成度

(数値は事業数)

項目 年度	A	B	C	D
	目標を高いレベルで達成している。	目標をほぼ達成している。	目標は達成していない。	目標にはるか及ばない。
19	6	7	0	0
20	5	8	0	0
21	8	11	0	0

波及効果

(数値は事業数)

項目 年度	A	B	C	D
	環境改善に寄与し、かつ地域社会・市民・企業などに好影響を与え、事業継続により、更なる発展が見込める。	環境改善や社会的な好影響がある程度認められ、事業継続により、今後の発展を見込める。	環境改善や社会的な好影響があまり認められないが、事業継続について改善の余地がある。	環境改善や社会的な好影響が認められず、事業継続による今後の発展が見込めない。
19	6	7	0	0
20	6	7	0	0
21	11	8	0	0

効率性

(数値は事業数)

項目 年度	A	B	C	D
	効率性(事業効果と事業費との相関から見た適正さ、受益者負担や収益の創出などによる行政コスト削減への貢献度合いなど)が高い		効率性(同左)は適当であると認められる。	改善の余地がある。
19	7	5	1	0
20	7	5	1	0
21	11	8	0	0

《各事業の評価状況》

事務事業名 (戦略プロジェクト)	高効率プラスチック油化装置の開発 (エネルギー関連技術開発及び導入の推進)				特記事項
項目 年度	達成度	波及効果	効率性	総合評価	研究開発された技術により、特許ライセンス収入が得られている。実用化に向けて、処理技術等を確立するための実証実験を実施するため、さらなる技術開発や事業化が期待される。
21	B	B	A	A	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	水素・燃料電池に関する研究開発 (エネルギー関連技術開発及び導入の推進)				特記事項
項目 年度	達成度	波及効果	効率性	総合評価	21年度は東田地区に水素ステーションを整備。今後は水素タウンの整備を開始し、水素の配管ラインが敷設され、博物館などで利用を予定。
21	-	B	A	-	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	石炭及びバイオマスを原料とするDMEの製造とその利用に関する研究(エネルギー関連技術開発及び導入の推進)				特記事項
項目 年度	達成度	波及効果	効率性	総合評価	日本と中国の共同研究。科学技術振興機構(JST)のプロジェクト事業で事業費は全額JSTが負担。
21	A	A	A	A	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	食品廃棄物エタノール化リサイクルシステム実験事業(エネルギー関連技術開発及び導入の推進)				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	小規模排出事業者(病院、小学校、商店街等)からごみを収集。製造したエタノールは市公用車等に利用。 「北九州市環境基本計画」では「食品廃棄物エタノール化リサイクルシステムの開発」と掲載
21	A	B	A	A	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	小・中学校太陽光発電の設置 (エネルギー関連技術開発及び導入の推進)				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	21年度は太陽光発電パネルを小中学校61校に設置。累計79校(735kw)。設備は環境教育にも活用している。
21	A	A	B	A	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	【新規】市営住宅CO2削減対策モデル事業(エネルギー関連技術開発及び導入の推進)				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	CO2削減対策の一環として、市営住宅の建替えに併せ、市営住宅に太陽光発電設備(各棟10kw未満)を設置する。21年度はモデル団地1ヶ所の工事に着工、22年度に完成。
21	-	A	A	-	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	【新規】水道施設への太陽光発電施設導入(エネルギー関連技術開発及び導入の推進)				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	CO2削減対策の一環として、配水地4箇所(1箇所あたり)に太陽光発電設備(9.5kw)を設置。年間9,000kwhの発電量を想定。
21	A	B	B	A	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	水力発電 (エネルギー関連技術開発及び導入の推進)				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	穴生発電所による発電量は1,460kwh。水事情により、前年より減少しているが、導入後の効果は高い。
21	B	B	A	A	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	バイオマス〔下水汚泥の燃料化事業〕 (エネルギー関連技術開発及び導入の推進)				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	20年度に「下水道ビジョン」の「汚泥の再資源化」に関する事業化に向けた調査を実施。21年年度は、最新の技術情報を収集。
21	-	A	A	-	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	家庭・建築物省エネルギー改修・新エネルギー導入促進事業(まちのエネルギーシェイプアップ事業)				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	21年度から、国の雇用開発事業の一環として実施し、市の負担はなくなった。
21	B	B	A	A	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	ヒートアイランド対策推進事業(小倉都心部におけるヒートアイランド対策)				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	国のモデル事業として民間事業者が建物屋根に高反射塗装を実施。打ち水事業は、市民、事業者、行政等で4件実施した。
21	B	B	A	A	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	勝山公園整備事業 (小倉都心部におけるヒートアイランド対策)				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	21年度に整備した「プール跡地」は、水と潤いの空間として植栽やミストを設置。舗装には排水性舗装やリサイクルレンガを使用。
21	B	A	B	A	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	花と緑の並木通り整備事業 (小倉都心部におけるヒートアイランド対策)				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	市内3箇所にスポンサー花壇を設置。スポンサー数は昨年と同数であるが、花壇維持管理のボランティア数は年々増加している。
21	B	B	B	B	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	都市モノレール・バスの利用促進〔公共交通促進事業〕小倉都心部におけるヒートアイランド対策)				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	交通事業者と市が連携し、小倉都心部のバスロケーションシステム(5箇所)を設置することで路線バスの利便性向上を図った。
21	A	A	A	A	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	エコドライブ推進モデル事業 (八幡東田地区グリーンビレッジ構想)				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	「北九州発！エコドライブプロジェクト」とあわせ市内事業者9社が参加。CO2削減効果の他に、企業内のコミュニケーションの高まりによる環境改善効果も見られた。
21	B	A	B	A	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	地球温暖化対策推進助成事業(太陽光発電など地球温暖化対策関連設備への導入支援)				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	21年度は、太陽光発電システム導入が259件と大幅に増加した。国の補助金再開にあわせ、補助金額を変更した。
21	B	A	A	A	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	次世代エネルギーパーク構想推進事業 (次世代エネルギーパーク構想の推進)				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	21年7月にオープンし、週2回の見学受け入れを開始し、約1万4千人が来場した。市民の次世代エネルギーへの理解促進につながっている。
21	A	A	A	A	

事務事業名	ノーマイカー推進事業				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	20年度は小倉、八幡の2つの地区で実施。両地域合わせて、約6,800人の参加があった。
21	B	B	B	B	

事務事業名	建築物総合環境性能評価制度 (CASBEE)の構築				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	建築計画時の自己評価により、環境配慮型建築物の普及効果がでていいる。21年度は若干目標を下回ったが、19年度以降の累計では目標を超える実績で推移している。
21	B	A	A	A	

事務事業名	モーダルシフト推進補助事業				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	予想を大きく上回る申請があり、過去3年間の平均の2.4倍にあたる12,000tのCO2を削減。
21	A	A	B	A	

事務事業名	【新規】紫川エコリバー整備事業				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	勝山橋に太陽光発電ルーフを設置し、発電電力を水環境館で利用。市内外からの来訪者に対するのアピールも高い。
21	A	A	A	A	

事務事業名	【新規】北九州発！ エコドライブプロジェクト				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	エコドライブ推進モデル事業とあわせ市内事業者9社が参加。CO2削減効果の他に、企業内のコミュニケーションの高まりによる環境改善効果もみられた。
21	B	A	B	A	

事務事業名	ゼロ・カーボン先進街区形成推進事業				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	21年度は、低炭素技術を有する企業へのヒアリングや意見交換を実施。H23年度の土地区画整理事業の事業認可を目指している。
21	-	B	B	-	

4 循環型の生活様式・産業構造への転換

(1) 基本施策に係る事項の概況

平成 18 年度からの家庭ごみ収集制度の見直し等の施策により、目標に掲げた「市民一人一日当たりの家庭ごみ 20%減量」について、平成 21 年度は約 28%（平成 15 年度比）と前年の約 26%を超える家庭ごみ減量化を達成した。

「一般廃棄物処理基本計画」が 22 年度末で終了したため、平成 23 年度以降の計画を策定するため、市民・事業者・学識経験者など様々な立場から意見をいただきながら、策定を進めている。

エコタウン事業については、事業数 25、総投資額約 605 億円、雇用者数約 1,300 名（いずれも平成 21 年度の状況）とわが国最大規模の事業が展開され、視察者もエコタウンセンターに年間約 29,000 人、エコタウン全体で約 95,000 人と依然として注目されている。毎年度実施される市民意識調査では、「ごみの適正処理とリサイクル」の項目が、18 年連続で 1 位（平成 22 年度時点）の評価を受けている。

(2) 評価対象事業

以下の 8 項目 10 事業を評価対象としている。

ア：戦略プロジェクト関連事業	イ：基本政策項目関連事業
3R 技術高度化による新たな環境産業の創出 a 3R 技術高度化研究会 b 北九州市環境未来技術開発助成事業 北九州エコプレミアム産業創造事業及びエコアクション 21 認証・登録支援事業 a 北九州エコプレミアム産業創造事業 b エコアクション 21 認証・登録支援事業 北九州エココンビナート推進事業 食品廃棄物のバイオマスエネルギー化等の推進 a 食品廃棄物エタノール化リサイクルシステム実験事業	古紙リサイクル推進事業 生ごみリサイクル対策事業 不法投棄防止事業 産業廃棄物資源化・減量化技術等支援事業

(3) 事務事業の進捗状況

今回評価対象とした 10 事業の内、8 事業に着手されている。

21 年度から実施された事業又は計画段階などとなっている事業

21 年度から実施された事業又は評価を開始した事業
「産業廃棄物資源化・減量化技術等支援事業（イ - ）」
計画段階又は中間段階（完成に到っていない）の事業

「北九州市環境未来技術開発助成事業（ア - - b）」については、助成を行った研究から 25 年度までに 16 件の事業化を目標としている。21 年度までに 12 件の事業化と計画どおりに推移している。

北九州エココンビナート推進事業（ア - ）については、地元企業などと工場見学や協議会を開催しているが、事業が具体化するには到っていない。

① 総合評価

各評価軸の総計によれば、21 年度については、「A」又は「B」の評価となった。

「達成度」、「波及効果」、「効率性」の各項目は、概ね 80%以上の評価となっている。

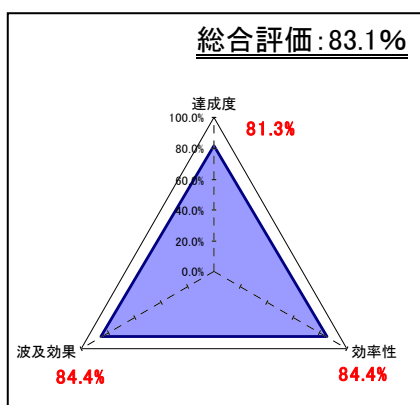
評価軸の総計

（数値は事業数）

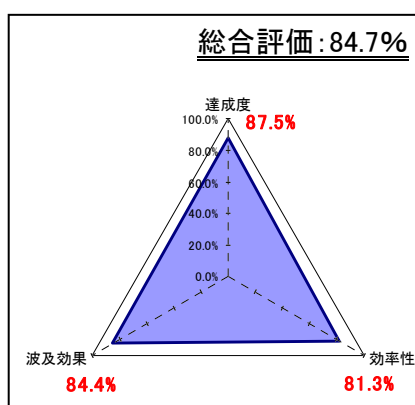
年度	項目	A	B	C	D
19		5	3	0	0
20		6	1	1	0
21		5	3	0	0

各項目の評価状況

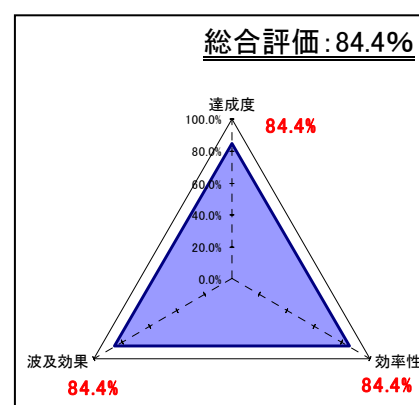
19 年度



20 年度



21 年度



② 事業評価

評価内容の事例

「北九州エコプレミアム産業創造事業（ア - - a）」は、21 年度までに当初の目標を超える 155 件を選定した。

「古紙リサイクル推進事業（イ - ）」は、21 年度は、回収量は減少しているが、参加団体は 1,759 団体と微増しており、コミュニティづくりにもつながった。

「生ごみリサイクル対策事業（イ - ）」については、平成 4 年度の事業開始から約 4 万基のコンポスト化容器に対して助成を実施し、周知・普及には一定の成果があがった。21 年度は、様々なコンポスト化手法の紹介や継続的に使用するためのコツ等に関する

講習をモデル的に実施し、22年度から本格的に講座を実施している。

課題となる事項

「エコアクション 21 認証・登録支援事業（ア- -b）」については、認証取得企業数が前年から倍増したものの目標には及ばなかった。セミナーへの参加数は目標を超えており、今後も一層のPRや指導・助言を行っていく。

③ 新たな動向(計画策定後の事業)

21年度から、市内で発生する産業廃棄物の資源化・減量化と適正な処理を推進するため、処理業者を対象とした講習会を実施している。

《各評価軸の概要》

達成度

(数値は事業数)

年度	項目	A	B	C	D
		目標を高いレベルで達成している。	目標をほぼ達成している。	目標は達成していない。	目標にはるか及ばない。
19		3	4	1	0
20		5	2	1	0
21		4	3	1	0

波及効果

(数値は事業数)

年度	項目	A	B	C	D
		環境改善に寄与し、かつ地域社会・市民・企業などに好影響を与え、事業継続により、更なる発展が見込める。	環境改善や社会的な好影響がある程度認められ、事業継続により、今後の発展を見込める。	環境改善や社会的な好影響があまり認められないが、事業継続について改善の余地がある。	環境改善や社会的な好影響が認められず、事業継続による今後の発展が見込めない。
19		3	5	0	0
20		3	5	0	0
21		3	5	0	0

効率性

(数値は事業数)

項目 年度	A	B	C	D
	効率性(事業効果と事業費との相関から見た適正さ、受益者負担や収益の創出などによる行政コスト削減への貢献度合いなど)が高い		効率性(同左)は適当であると認められる。	改善の余地がある。
19	3	5	0	0
20	3	4	1	0
21	3	5	0	0

《各事業の評価状況》

事務事業名 (戦略プロジェクト)	3R 技術高度化研究会 (3R 技術高度化による新たな環境産業の創出)				特記事項
項目 年度	達成度	波及効果	効率性	総合評価	21年度は、共同研究会を立ち上げ、環境未来技術開発助成事業に採択されたものがあつた。
21	A	A	B	A	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	環境未来技術開発助成事業 (3R 技術高度化による新たな環境産業の創出)				特記事項
項目 年度	達成度	波及効果	効率性	総合評価	21年度は、18件の研究を助成対象として採択。また、1件が事業化に結びつくなど成果につながっている。「中間段階の評価」であるので、評価対象に加えていない。
21	-	A	B	-	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	北九州エコプレミアム産業創造事業 (北九州エコプレミアム産業創造事業及びエコアクション21認証・登録支援事業)				特記事項
項目 年度	達成度	波及効果	効率性	総合評価	エコプレミアムの選定件数が、21年度までに155件となっており、23年度までに140件という目標を既に超えている。
21	A	A	A	A	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	エコアクション 21 認証・登録支援事業 (北九州エコプレミアム産業創造事業及び エコアクション 21 認証・登録支援事業)				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	21 年度の認証取得企業数は 16 社と前 年から倍増したが、目標には及ばなか った。セミナーへの参加数は目標を超 えており、次年度以降の増加が期待で きる。
21	C	B	B	B	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	北九州エコ・コンビナート推進事業 (北九州エコ・コンビナート推進事業)				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	参加企業による工場見学などを年に数 回実施。「中間段階の評価」であるので、 評価対象に加えていない。
21	-	A	A	-	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	【再掲】食品廃棄物エタノール化リサ イクルシステム実験事業(食品廃棄物の バイオマスエネルギー化等の推進)				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	小規模排出事業者(病院、小学校、商 店街等)から生ごみを収集。製造した エタノールは市公用車等に利用。
21	A	B	A	A	

事務事業名	古紙リサイクル推進事業				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	地域コミュニティを活かした事業であ り参加団体が微増(1,759 団体)にあ る。景気後退などにより、回収量は若 干減少している。
21	B	A	B	A	

事務事業名	生ごみリサイクル対策事業				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	生ごみコンポスト化容器への助成は、 開始(H4 年)から約 4 万基となったが、 使用を中止した世帯も少なくない。そ のため、22 年度からは助成を終了し、 生ごみコンポスト化容器活用講座に変 更した。
21	B	B	B	B	

事務事業名	不法投棄防止事業				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	不法投棄量は年々減少傾向にある。 経費の一部は、国・県の補助金を充て ている。
21	A	B	A	A	

事務事業名	【新規】産業廃棄物資源化・減量化技 術等支援事業				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	不適切な産業廃棄物処理を防止するた め、最新の規制や情報を処理業者に周 知することは有効である。
21	A	B	A	A	

5 豊かな自然環境と快適な生活環境の確保

(1) 基本施策に係る事項の概況

総合評価は、20年度から若干下がったが、87%を越えており概ね良好といえる。

平成20年6月に「生物多様性基本法」が施行され、地方自治体も区域内における生物多様性地域戦略策定に努めることが明記された。平成22年11月には名古屋で「生物多様性条約第10回締結国会議(COP10)」が開催され、名古屋議定書と愛知ターゲットが採択された。また、COP10に合わせて地方自治体が生物多様性条約の役割を果たすことを誓った「地方自治体と生物多様性に関する愛知・名古屋宣言」も採択された。

本市では、平成17年に「北九州市自然環境保全基本計画」を策定し、自然環境分野での総合的・計画的な取り組みを進めてきだが、この基本計画を改訂する形で、「北九州市生物多様性戦略」を平成22年11月に策定した。

(2) 評価対象事業

以下の14項目16事業を評価対象としている。

ア：戦略プロジェクト関連事業	イ：基本政策項目関連事業
響灘・鳥がさえずる緑の回廊創成事業 自然環境サポーター育成事業 北九州市自然環境保全ネットワークの会の活動推進 里地里山の保全と持続的な利用 a 里地里山の保全と持続的な利用 b 中谷地区「まちづくり構想」の推進 c 長野緑地「市民参加による農業体験教室」 ⑤曾根干潟の保全と利用	市民植樹・美しいまちづくり事業・100万本植樹 世界一のほたるのまちづくり 光化学スモッグ発生原因の究明に関する調査 環境対策事業 大気汚染常時監視システム整備事業 市民との協働による景観づくり モラル・マナーアップ関連条例推進事業 工場・事業所監視事業 ダイオキシン類対策事業

(3) 事務事業の進捗状況

今回評価対象とした16事業の内、14事業に着手された。

21年度から実施された事業又は計画段階となっている事業

21年度から評価対象となった事業
「工場・事業所監視事業(イ-)」 「ダイオキシン類対策事業(イ-)」
計画段階又は中間段階(完成に到っていない)の事業
「市民との協働による景観づくり(イ-)」については、20年度に策定した「北九州市景観づくりマスタープラン」に基づき、市民が主体となった景観づくりを支援している。 「モラル・マナーアップ関連条例推進事業(イ-)」については、「モラル・マナーアップ関連条例」に基づき、市民の快適な生活環境の確保を図っている。

① 総合評価

各評価軸の総計によれば、21年度は「A」が12事業、「B」が2事業の評価となった。「達成度」、「波及効果」、「効率性」の各項目も概ね80%以上の評価となっている。

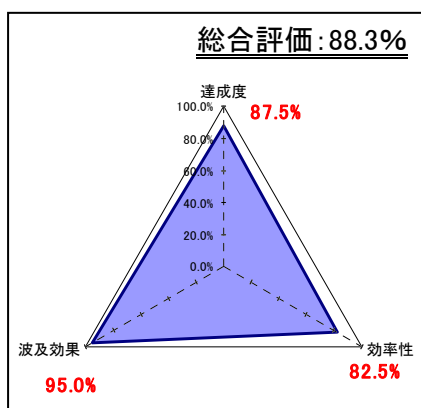
評価軸の総計

(数値は事業数)

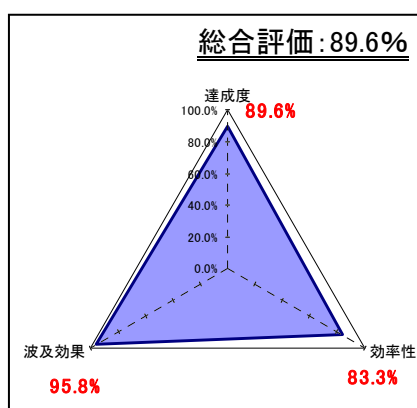
年度	A	B	C	D
19	9	1	0	0
20	12	0	0	0
21	12	2	0	0

各項目の評価状況

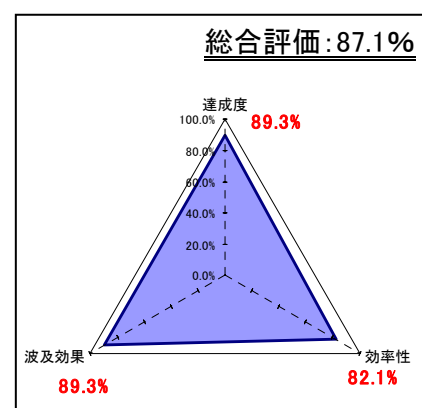
19年度



20年度



21年度



② 事業評価

評価内容の事例

「響灘・鳥がさえずる緑の回廊創成事業(ア-)」は、開始から3年間で約5万3千本の植樹を実施した。また、植樹会への参加者も年々増加している。

「自然環境サポーター育成事業(ア-)」は、21年度までに195人を養成。里山での活動、希少種の保存活動、自然観察講座の運営補助などの幅広い活動を担っている。

課題となる事項

20年度から事業を開始した「市民植樹・美しいまちづくり事業・100万本植樹(イ-)」では、「わたし記念日」と称した人生の記念日に苗木を配布(年2回)しているが配布数が計画と乖離しており、市民への周知をより一層充実する必要がある。

③ 新たな動向(計画策定後の事業)

22年5月に、「響灘ビオトープ」が仮オープンした。廃棄物埋立地跡地を活用したもので、日本最大級のビオトープとして平成24年度に正式オープン予定。これに先立ち、

そこにすむ生き物や自然を観察するエコツアー（自然観察会）を開催している。

《各評価軸の概要》

達成度

（数値は事業数）

項目 年度	A	B	C	D
	目標を高いレベルで達成している。	目標をほぼ達成している。	目標は達成していない。	目標にはるか及ばない。
19	6	3	1	0
20	7	5	0	0
21	9	4	1	0

波及効果

（数値は事業数）

項目 年度	A	B	C	D
	環境改善に寄与し、かつ地域社会・市民・企業などに好影響を与え、事業継続により、更なる発展が見込める。	環境改善や社会的な好影響がある程度認められ、事業継続により、今後の発展を見込める。	環境改善や社会的な好影響があまり認められないが、事業継続について改善の余地がある。	環境改善や社会的な好影響が認められず、事業継続による今後の発展が見込めない。
19	8	2	0	0
20	10	2	0	0
21	8	6	0	0

効率性

(数値は事業数)

項目 年度	A	B	C	D
	効率性(事業効果と事業費との相関から見た適正さ、受益者負担や収益の創出などによる行政コスト削減への貢献度合いなど)が高い		効率性(同左)は適当であると認められる。	改善の余地がある。
19	3	7	0	0
20	4	8	0	0
21	4	10	0	0

《各事業の評価状況》

事務事業名 (戦略プロジェクト)	響灘・鳥がさえずる緑の回廊創成事業 (響灘・鳥がさえずる緑の回廊創成事業)				特記事項
項目 年度	達成度	波及効果	効率性	総合評価	植樹本数は、21年度末で計5.3万本となっている。また、植樹会への参加者数も年々増加しており、緑化意識の裾野が広がりつつある。
21	A	B	A	A	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	自然環境サポーター育成事業 (自然環境サポーター育成事業)				特記事項
項目 年度	達成度	波及効果	効率性	総合評価	21年度までのサポーター数は195人と目標(200人)をほぼ達成した。育成されたサポーターは、里山での活動、希少種の保存活動、自然観察講座の運営補助などの幅広い活動を行っている。
21	B	A	B	A	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	北九州市自然環境保全ネットワークの会の活動推進(北九州市自然環境保全ネットワークの会の活動推進)				特記事項
項目 年度	達成度	波及効果	効率性	総合評価	自然ネット参加団体数は、21年度で31団体と着実に増加している。講演会やエコツアー、曾根干潟清掃活動など年間17の事業を実施している。
21	A	B	B	A	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	里地里山の保全と持続的な利用 (里地里山の保全と持続的な利用)				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	自然環境サポーター等にエコツアーや植樹会への運営補助を行ってもらうことで、経費削減を図っている
21	B	A	A	A	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	里地里山の保全と持続的な利用〔中谷地区「まちづくり構想」の推進〕 (里地里山の保全と持続的な利用)				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	小倉南区中谷地区において、地域住民との協働により、漬物コンクールとウォーキングを開催。漬物コンクールは、ラジオや新聞でも報道された。
21	A	A	B	A	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	里地里山の保全と持続的な利用〔長野緑地「市民参加による農業体験教室」〕 (里地里山の保全と持続的な利用)				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	小倉南区長野緑地で、地元住民を中心とした NPO が農業体験教室を開催。参加者は年々増加しており、21 年度は 2,319 人となった。
21	A	B	A	A	

事務事業名 (戦略プロジェクト)	曽根干潟の保全と利用 (曽根干潟の保全と利用)				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	エコツアーの参加は応募者多数のため抽選となっている。なお、干潟環境の情報収集のため、毎年環境調査を実施している。
21	B	B	B	B	

事務事業名	市民植樹・美しいまちづくり事業 ・100万本植樹				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	記念樹の苗木配布は、約 2,600 本と前年から減少しており、周知・PR の徹底が必要である。(H22 年度は約 3,800 本と増加している)
21	C	B	B	B	

事務事業名	世界のほたるのまちづくり				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	ホタルを通じて、海外との交流やシンポジウム開催、バスツアー等を実施した。ホタルの成育、飛翔に関しては、ホタル愛護団体等と連携して情報収集を行っている。
21	B	B	A	A	

事務事業名	光化学スモッグ発生原因の究明に関する調査				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	揮発性有機化合物、硫酸イオンの測定、分析により、近年上昇傾向による光化学スモッグの原因の調査を実施した。
21	A	A	A	A	

事務事業名	環境対策事業				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	環境基本法等の法律及び条例に基づき、各地点において常時監視を行った。
21	A	A	B	A	

事務事業名	大気汚染常時監視システム整備事業				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	大気汚染防止法の規定に基づき、21カ所で常時監視を実施し、常時監視できない地域については、移動測定車を用いて補完している。
21	A	A	B	A	

事務事業名	市民との協働による景観づくり				特記事項
項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価	北九州市景観づくりマスタープランに基づき、それぞれの地域にふさわしい魅力ある景観形成を推進している。21年度から一部国庫補助金を活用している。
21	-	A	B	-	

事務事業名	モラル・マナーアップ 関連条例推進事業				特記事項
	項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価
21	-	A	B	-	

事務事業名	【新規】工場・事業所監視事業				特記事項
	項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価
21	A	B	B	A	

事務事業名	【新規】ダイオキシン類対策事業				特記事項
	項目 年度	達成度	波及 効果	効率性	総合 評価
21	A	A	B	A	

北九州市環境基本計画 事務事業評価票 【 年度】

基準日 平成 年 月 日現在

事業分類		所管課	
事務事業名		事業期間	
事業概要			
評価時点	<input type="checkbox"/> 事前評価（事業未実施） <input type="checkbox"/> 中間段階の評価（実施途中のもの） <input type="checkbox"/> 事後評価（年度ごとに完結）		

【達成度】（※事前評価及び中間段階の評価の際は記載不要）

判定基準		目標値	現状値	
アウトプット指標	定量的な目標			
	定性的な目標			
アウトカム指標				
担当課自己評価			調整欄	

【波及効果】

判断基準		評価	
社会的効果			
発展性			
担当課自己評価		調整欄	

【効率性】

判断基準		評価	
事業の効果に対して適正な規模の経費であるか。			
縮減の仕組みがあるか。(受益者負担など)事業を実施することで収益の創出や行政コストの削減が実現したか。			
担当課自己評価		調整欄	

コスト		H19年度決算	H20年度決算	H21年度決算	H22年度決算	H23年度決算
財源内訳	事業費	千円	千円	千円	千円	千円
	一般財源	千円	千円	千円	千円	千円
	国庫支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	県支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	その他	千円	千円	千円	千円	千円

コストに関する指標	年度	実績値	コストに関する指標	年度	実績値	コストに関する指標	年度	実績値
事業費の対前年比	19	— %	事業費の環境首都決算に占める割合	19	%	一般財源比率	19	%
	20	%		20	%		20	%
	21	%		21	%		21	%
	22	%		22	%		22	%
	23	%		23	%		23	%

【コメント】

市民からの要望・期待が特に大きいもの、事業の実施により付随・派生した効果など、上記の指標では示せないものを記述。	
--	--

【総合評価】

担当局・室の評価、評価理由説明、今後の方向性				担当局・室の評価、評価理由説明、今後の方向性			
達成度	波及効果	効率性	評価	達成度	波及効果	効率性	評価

(総合評価)

- A: 積極的推進: 8.25点以上 B: 一部見直し: 6点以上～8.25点未満
 C: 抜本的見直し: 4点以上～6点未満 D: 廃止及び休止: 4点未満